

## 第44回 宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時 平成30年11月27日(火) 13:00~14:10

2. 場所 内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3. 出席者

(1) 委員

中須賀部会長、松井部会長代理、青木委員、上杉委員、下村委員、山崎委員、渡邊委員

(2) 事務局(宇宙開発戦略推進事務局)

高田局長、行松審議官、山口参事官、須藤参事官、高倉参事官、森参事官、滝澤参事官

(3) 関係省庁等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課企画官	有林 浩二
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課	
宇宙利用推進室室長	倉田佳奈江
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	
研究開発部門研究戦略部長(兼)研究推進部長	張替 正敏
一般財団法人 日本宇宙フォーラム 常務理事	吉村 善範
一般財団法人 リモート・センシング技術センター	
ソリューション事業第一部 部長	向井田 明

4. 議事要旨 (○:質問・意見等 ●:回答)

(1) 工程表改訂案について

資料1に基づく事務局の説明のあと、次のような議論が行われた。

### ■工程表34:再使用型宇宙輸送システム

- 2019以降で「課題の検討」を進めるとあるが、それと同時に「宇宙輸送システム長期ビジョン」を見直していくことも重要ではないか。また、課題については技術的課題だけではなく、コスト面も含めて将来性を検討していくことも重要。また、その結果を踏まえて、GO/NOGO判断どうを行うかも重要な視点。
- 2019年度から課題の検討を行う際には、長期ビジョンの再検討も視野に入れていきたい。コストについても、(SpaceXなど)各国の取組状況を見ながら、検討を深めていく。

■工程表 38 : 調査分析・戦略立案機能の強化

○長期にわたって調査を続けるということで、継続的に調査していくためのファンクションを作ることが重要である。また、担当が変わった時の引継ぎなども課題となり得る。長期的な調査テーマやマイルストーンを定めるなどの工夫があると良い。

○関係府省等が実施してきた調査の整理・共有もしっかりと進めて頂きたい。

■工程表 53 : その他の取組（スペースデブリ対策）

○スペースデブリ対策については取組の全体像を整理していくことと共に、政府全体としての方針を整理しないといけない。

●JAXAでも技術と基準・ルールの検討を横通しして実施しているので、適宜取組状況を共有していく。

(2) 調査分析機能の強化の状況について

資料 2-1 及び資料 2-2 に基づく事業者の説明のあと、次のような議論が行われた。

○海外の機関との連携はどのような事例があるか。

●今は、お互いに主催するシンポジウムに相互に参加して知見を共有しあうような関係。今後さまざまな方向に発展させていきたい。

○継続的に調査分析を行っていくための課題などあるか。

●専門のチームを囲い込むような体制ではなく、さまざまなプロジェクトにいる専門家の知見を纏め上げるようなやり方をとっており、要のチーム構成の維持が難しい。また、お金をどう獲得していくかも課題。

○政府機関のオーダー以外に、独自の発想からも調査を進め提案ができるようになるとさらに良いと思われる。

(3) APRSAF の開催結果について

資料 3-1 に基づく文部科学省の説明のあと、次のような議論が行われた。

○来年は日本開催なので、この機会をうまく活用して頂きたい。

(4) その他（宇宙活動法基準・安全小委員会構成員について）

資料4に基づき事務局から報告された。

以 上